

2005年7月4日 日本テレビ 定例会長社長記者会見

1. 新体制の発足にあたって

記者：新体制の発足にあたり、氏家議長、間部相談役、そして萩原最高顧問に、お話ををお願いします。

氏家齊一郎議長：

日本テレビは10年間黄金時代が続いたと思います。それが残念ながら、確かに今翳りが見えたことも事実です。巨人が弱いということも事実ですが、はっきり言って私どもの誇る番組が全部弱まってきたなという感じはしています。

ただ、日本テレビが最盛期であった4、5年前は、全日視聴率が11%台、ゴールデン・プライムは16%台の視聴率をとってきたんですよ。今の視聴率についてはゴールデン・プライムが14%台、全日は9%台でしょう。だから、非常にバーが低くなっている。ということは、下位にいたテレビ朝日等が勢いをつけてきたことで、ダンゴ状態になりつつあるのかなという気が私はしています。

企業としてはここで一步進み出ないと、かなり厳しくなりますので、ここで黄金時代を支えてくれた萩原副社長、間部社長そして私も一線から引く。執行もすべて、今まで私が最終的な責任を持ってやってきましたからね。裏方に回ろうというのが今回的人事です。この変革を通じて社内を盛り上げ、かつ各社員の持っている力を顕在化、活性化させようという狙いです。単なる若返りということではなくしに、適材適所で布陣したと思いますので、この新しい力でもって全体の活性化を図っていく。多分私が考えているように、期待に添ってやってくれると思います。そういうことで、大いに期待している体制と人事です。

間部耕平相談役：

副会長時代、そして社長時代、日本テレビが非常にフォローの時代、四冠王といわれた時代が10年続きました。一方で一連の不祥事が起きてアゲインストの時代になり、私はこの両方の時代を経験してきました。今後私は相談役として、経営戦略の全般的な監視・監督、それから経営判断の助言を行っていきます。そのほかに業務監査委員長と、グループ戦略を担務することになりました。

この業務監査委員長というのは、日本テレビが設定したコンプライアンス憲章や法令の遵守がきちんと行われているかどうか、会社方針などが適正かつ効率的に実施されているかどうかを独立した立場から監視する。その業務を実施していきます。

また、最近は連結決算等で関連会社に負うところも非常に大きく、本体と一体となってやるべき業務や放送外収入も伸ばしていくかなければならないため、関連会社は相当に重要な立場になっています。その担当もやっていきます。

相談役という名前は何となく隠居するような名前に見えますが、闘う相談役をやれということです。今後とも引き続きよろしくお願ひします。

萩原敏雄最高顧問：

1993年から編成局長を7年間務めました。その後編成担当として3年間。ちょうど日本テレビが四冠王を10年続けている間、編成を担当してきました。10年連続四冠王というのは、やはり皆様方のご協力があってはじめてできたことございました。心から感謝したいと思います。

しかしながら、四冠王というと非常に格好はいいのですが、やはりこれを達成するためには、光と影の部分がありました。例えば視聴率操作問題。そして世代交代や企画開発の遅れといったような部分もだんだん出てくるようになりました。もう現在の日本テレビの状況で10年連続四冠王を達成したということは、ほとんど役に立たないと思います。したがって、10年連続四冠王というのは、社史あるいはテレビ史の中に閉じ込めてしまい、影の部分も私が退くことによって終わりを告げ、新体制が完全な改革に取り組むことができる。そうしなければ、これからの中ではとてもテレビはやっていけないと思います。

今後は最高顧問ということで、日本テレビフィットボールクラブ、東京ウェルディ1969と日テレ・ベレーザを抱えているクラブの会長兼社長の仕事を中心的にやることになると思います。本当に長い間お世話になりました。

2. 日本テレビの新たな経営方針について

記者： 新体制では、どのような経営方針で今後臨まれますか？

久保伸太郎社長： 経営方針として、私に与えられた命題は言うまでもなくトップ奪還、それだけです。ただし、例えば地上波で視聴率1位とか、売り上げ1位といった数字を獲得したとしても、おそらくこれからの放送メディアを取り巻く競争の世界では、皆さん方からトップカンパニーになったという評価は、

必ずしもいただけないのではないかと私自身は思います。つまり、競争の土俵は非常に大きく広がって、かつ土俵の数も増えていると認識しています。

したがって、日本テレビの社員諸君に対しては、総合優勝を目指そうという言葉で呼びかけています。私としては、日本テレビは独創的な番組、時代を先取りする番組を送り続けてきたという自負がある。自信を持てということを申し上げているところです。おそらくこれからも日本テレビにあるDNAを引き出して、皆さんの中に、これが日本テレビだという発明品を送り届けることが私の仕事と考えています。

放送事業を含めてメディアを取り巻く外部環境というのは非常に急激に変化していて、ものすごいスピードだと思います。ついこの間までは、「放送類似事業がどんどん現れてきて我々も大変だ」というような表現を使っていましたが、やはり様々な技術の進歩によって、だれでも放送局になれる、そういう商売が始まられる時代がもう目の前に来ている。そのときに、私ども放送メディアがどう変わっていくのかということは、単に日本テレビの経営を立て直す、単に売り上げを上げて利益を増やすというだけでは、なかなかこの先難しいのかなと思っています。

3. 7月改編について

記者：今回の7月の改編についての評価及び最近の視聴率の動向は？さらに、「A」の6月放送終了についての判断は？

久保社長：私も最近のドラマは時間の許す限り観ていますが、視聴者の皆さんから相当ご支持をいただいているなと思っています。これはぜひ様々な形で力を入れていきたいと思っています。とにかくドラマであろうとバラエティであろうと、時代を先取りするもの、半歩でも時代を先取りするものを視聴者に送ってくれということを社内の会議でも伝えています。今度始まる2つのドラマもそういうものが含まれていると私は思っています。詳しくは編成局担当の山根取締役からお話をします。

山根義紘取締役：7月の改編については、水曜日、土曜日ドラマが2枠です。土曜日は、「女王の教室」。先週の土曜日からスタートし、主演が天海祐希さん。学力のみで生徒の価値を判断するような鬼教師というような役所で、教師に翻弄されながらも成長していく生徒たちの姿を描くというストーリーです。

第1回の視聴率は14.4%と、まあまあのスタートではないかと思っています。

全11回の予定です。水曜日は、「おとの夏休み」。7月6日水曜日からスタートします。海の家の営業権を譲り受けた3人の女性の物語です。寺島しのぶさん、オセロの中島知子さん、石黒賢さんなどが出演しています。

日曜日放送の「A」の終了についてですが、アジアの人々の生活を探りながら、日本人の生活と生き方をもう一度見直そうというコンセプトで、久米宏さんを中心にスタートしました。しかし、このコンセプト自体がなかなか視聴率に表れませんでした。番組制作現場と久米さん、制作会社のオフィス・トゥー・ワンといろいろ話をしたのですが、それが浸透するまでにかなり時間もかかるということで、私がオフィス・トゥー・ワンの責任者とお会いし、ここはひとつ決心しようじゃないかということで、放送を終了することにしました。

出演者の皆さまなどに大変ご迷惑をお掛けしたので、丁寧な作業をして、結果的にはオフィス・トゥー・ワン、久米さん並びに出演者の方々とも円満にといいますか、話を全部現場で詰めた形で終了したわけです。

10月に向けての新企画の立ち上げを現在考えていて、そちらのほうに全力を投球していきたいと思っています。

4. プロ野球中継について

記者：プロ野球中継の視聴率について、今のところなかなか伸びてこないという状況だと思うのですが、人気回復策は何か考えていらっしゃいますか。また先日、長嶋終身名誉監督が観戦されましたか、その反響はいかがでしたか。

氏家議長：最初に長嶋名誉監督の観戦についてですが、視聴率は13.5%でした。あの試合内容ですと、今の状況では10~11%の間ぐらいかなという感じなんですね。やはり長嶋さんが、2%から3%押し上げたかなという感じを私自身は持っています。ビデオリサーチ社に分析を頼まないと、正確なことは言えませんが、私自身はそのように感じています。

私自身は直接会っていませんが、間接的にはいろいろな情報を聞いています。彼自身、非常に純粋なんだな。ベースボールが自分の天与の使命であるという感覚が依然として強く、だから何か役に立ちたいと考えているようで、今後とも何かあればという意志を持っているようですから、これを皮切りに徐々にいろいろな形で皆さんの中にも出るようなことを、当人が考えるかもしれません。治癒の状況は、医者でないからわからないけれど、奇跡的に早いそうですね。やはり体力があるのかな。だから、待っていれば、完全に近いほど回復してくれる可能性も非常に高いですからね。私どもからは、「長嶋さん、また顔を出して

「ください」とは言いませんが、ご当人の意志でやるということは、私は十分に考えられるかなと思っています。その際、私どもは万全の態勢で、意志に沿うようにやっていかなければと考えています。

視聴率について、思わしくないということは事実ですが、日本テレビの巨人戦に対する総体的な考え方としては、スポーツ中継番組というのは、決して今の視聴者の方のいわゆるデマンドが減ったかというと、減っていない。若干いろいろなことでプロ野球離れが出てきたかなという感じがしているというのが現状で、これからいろいろな手を打てば、必ずジャイアンツを中心としたプロ野球の力は、回復するだろうと思っています。これまでの反省がファンサービス。今までではやはり人気におぼれすぎていて、あまりやっていなかつたという反省があって、これはもうジャイアンツとしても、その反省はしています。

子供たちにとって野球場が縁遠くなるような客観情勢もあったし、プロ野球側の努力も足りなかつたんじゃないかなという感じがしており、私どもとしては、まず野球に親しんでもらおうということで、今年は文京区の小学生を日曜ナイターに100組ご招待しました。さらにそれを来年以降、拡大していくつもりです。文京区は近いから、夜も早めに帰れます。でも、プレイボールを17時になると、だいたい20時台には終わりますから、23区内なら、小学生でも大丈夫かなという気もするので、少し招待範囲を広げ、馴染んでもらっていくというのが、私どもとしての対策で、ジャイアンツとも引き続き対策を練っている状況です。

具体的な中身については、いろいろな側面で回復策をというより、1つひとつ問題点をつぶしていくこうという形でやっているようですから、非常に結構な話なので、それは大いにやってほしいとジャイアンツ側には言ってあります。巨人のほうでも問題意識を持って、各他球団とも話し合ってやっているようですから、どのくらいかかるかはわかりませんが、回復基調には乗ると思っています。現実に今度の交流試合は、そういう意味での回復に役立ったというのが、数字にも若干表れていますから、今後はこうしたことを皮切りに、来年どのように決めていくか、交流試合その他はまだ決まっていませんが、とにかく新しいものをどんどん取り入れていかなければならぬということは、プロ野球界全体に行き渡っているようですから、回復できると思います。

テレビ各局の首脳とも時々会って話していますが、プロ野球も貴重な資源だから、みんなで育てていこうという意見の方がほとんどです。そういう意味でも、客観的な回復条件は整ってきたかなという感じです。ですから、引き続きこの優良ソフトを守りながらいこうというのが今の基本的な判断です。

記者：他局で放送時間の延長をどうするか検討されると聞いているのですが。

氏家議長：各局とも、まだそのような意見があるという程度と捉えています。来年以降、この秋以降になりますからね。各局がどういう態度をとるかわかりませんが、我々は、10対0とか、勝敗がついてしまったような試合だったら、これはちょっと問題があるかもしれません、そうでもない試合だったら、30分延長することは、あらゆる点で、営業的にも決してマイナスはない今は判断しています。そういうことです。

記者：今回長嶋さんが試合を観戦されたのは、御社のほうから来てくださいと依頼されたということなのですか。

氏家議長：いえ、それはないですよ。それは全然なく、彼の健康が大事で、早く治ってもらいたいですから、心理的負担になるようなことは頼んでいないんです。今度の件も、私が巨人から聞いたところによると、前々から、積極的に出たいという意志を持っていたそうですが、これまで家族も慎重に対応をしていました。しかし今回は本人の意志どおり観戦をしても問題ないだろうという主治医の判断があったので、来られたということです。私どもとしては働きかけはしないけれども、彼が熱意のある人だから、やろうと言われたら、非常に十分なケアをしながら、やっていきたいという気はあります。あくまでも彼の主体性を尊重します。

記者：昨日のナイターの視聴率は予想通りですか？

氏家議長：ワンマンショーなら1人だけの力で上がるかもしれませんけれども、野球やサッカーなど集団で行うものは、たった1人輝ける選手がいたって、立て続けに負けたりしたらどうしようもない。そういう意味で言うと、1人のスターが出ると、ある程度視聴率に影響があることはわかっていますが、10%とか、5%以上も変わってくることはほとんどないだろうなという判断でしたので、予測されたよりは2.5%から3.5%上がったわけですから、そういう意味ではよかったです。

記者：10対0などの場合、放送の延長はしないということもあるのでしょうか。

氏家議長：もともと21時までが定時ですから、ワンサイドゲームのような形になると、観ているお客さまもかえって退屈し、その次の番組のほうが大事だと

いうことになるかもしれません。そういう意味では定時終了もあり得るかということだと思いますよ。できるだけ定時終了はしないつもりですけどね。

5 . 営業状況について

記者：最近の営業状況についてお話しください。

久保社長：4 - 6月の第1四半期について、営業状況の指標であるスポットCMの出稿状況、また売上については、前年実績比100%を超えた。7月以降については、既に皆様もあるいはお聞き及びかもしれません、なかなか厳しい状況です。これは日本テレビのみならず、在京各社とも同様の状況のようです。

ネットタイムに関しては、単発は、やはりよい単発番組は売れるということがかなりはっきりしてきています。24時間テレビのセールスを始めていますが、昨年よりは良い出足でセールスが成立しつつあるということです。ただし、全体の市況を占うスポットセールスについては、7月は非常に厳しいという出足ですね。

私が経営陣の一角に入ってから非常に痛感しているのは、日本の上場企業に四半期別決算が導入されて、今年からはいよいよ東証の指導も本格化してきて、積極的な情報開示を迫られています。これは上場企業であるスポンサー各社にとっても同じ状況で、経営者にとって四半期別決算を本格化し、四半期ごとに売上と収益、利益を確保していくということは非常に重い課題です。

スポンサー各社、特に上場企業のスポンサー各社は、どの程度の宣伝費を投入した結果、どの程度の売上が確保されたかという費用対効果に対する追及が非常に厳しい。これはここ数年、日増しに非常に強くなっています。これを我々の営業のセールスにたとえると、非常に上手なことを言った人がいるのですが、出るのも早いが引っ込むのも早い。例えば今年の4月のスポットセールスは、私ども業界の関係者が予測していたより非常に良い出足でした。でも逆に7月は、今のところ先が読めない。おそらく猛暑を待っているのでしょうか。飲料系はお天気勝負のところがありますから、今年の夏は暑いとなると、一気に出てきます。こうした季節要因も含めて、スポンサー各社の出稿が非常にきめ細かくなっています。それを単純に私どもも受け入れるだけでは商売になりませんから、相当工夫をしていかなければいけない。それがこれから営業の差になって出てくるのではないかと思っています。

6 . 今年の24時間テレビについて

記者：24時間テレビについて、8月28日までに会見がないと思うので、ここでお話をいただけたければお願ひします。

久保社長：コンセプトを福祉だけでなく、環境もテーマに取り入れていこうということを始めたところです。今年の番組にもその辺を折り込んでいくという方向です。また、番組では様々な実験もしており、携帯電話を通じたチャリティーへの参加についても、実験的な段階から、今年はより本格的に取り組みたいと思っています。番組のコンセプトや内容等については、山根編成担当からお話しします。

山根取締役：8月27日の土曜日18時半から28日の日曜日の20時54分を予定しています。大きな企画としては、スポーツ企画、ネットワークを中継でつなぐネット企画。24時間テレビのチャリティーマラソンとトライアスロン。坂本龍馬の沈没船の大搜索、エコロジー企画、この7つの大きな企画を軸に、武道館を中心とした番組の構成を考えています。

21時台恒例のドラマ企画もありますし、チャリティーマラソンでは、「行列のできる法律相談所」で活躍している丸山弁護士が約100キロに挑戦、59歳ではありますが、非常に強靭な体力をお持ちで、ご本人相当やる気になっています。ご存じのとおり、今年のテーマは「生きる」、総合司会は徳光和夫さん、西尾由佳里アナウンサー、メインパーソナリティは、S M A Pの草彅剛さんと香取慎吾さん。先ほどの企画を軸にして、「行列のできる法律相談所」の松岡至をプロデューサーに、総合演出に高橋利之を立て、今年の24時間テレビは行列チームで数字を取りにいこうと考えています。

記者：1セグ放送は、来年春開始と言われていますが、準備状況は？

久保社長：1セグ放送は、地上デジタル放送でデジタル化による付加価値の部分として、私どもも大きなビジネスチャンスであり、また、視聴者の皆さんにとっても様々な利便性の向上や、いつでもニュース、どこでも天気予報のような、ユビキタス社会の情報ツールとして、非常に優れたものだという位置づけです。社内でも横断的に、営業、編成も含めた取り組みをして、着々と準備をしています。

ただ、視聴者の皆さんには、1セグ放送について、まだ浸透していないのではないかと思いますので、ネーミングも含めてぜひ地上デジタルを理解していくと同時に、早期の普及を図っていきたいと考えています。

当面、地上波12セグメントの放送とのサイマル放送という位置づけですが、やはり携帯端末向けの配信となると、画面もやはり小さいですから、明らかに固定受信向けの配信とは違うサービスをしたいとか、あるいは通信系の事業者、キャリアの方と一緒にするのであればどういうことができるのかとか、いろいろなことを考えたいと思っています。

記者：ありがとうございました。（了）